

第1講 古文入門

基礎学習

1 古文って何？

およそ奈良時代から江戸時代までに書かれた文学作品を古典文学と呼びます。「古文」とは、これらの古典文学を読解する力を養う教科です。古典文学は、約千年間という長い時間にわたって書き継がれてきたものですから、当然、時代時代によって、その作品の中で用いられている文法や単語の意味は少し異なります。しかし、昔の人達は、平安時代の文学作品を重視してきましたから、古典文学の多くの作品の文章は、平安時代の文法や単語を基本にしています。そこで、我々も、主に平安時代の文法や単語をスタンダードな古文として学んでいくこととなります。

2 声を出して読んでみよう

読解法を勉強する前に、まず、声を出して古文を読んでみましょう。古文は、独特の仮名遣い（歴史的仮名遣い）をしますし、現代語では使用しない文字を使うので、音読するのにも練習が必要です。

◎歴史的仮名遣い

古文を音読するときは、次のような約束事に従って読んでください。

(1) 語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。

(例) 笑ひ↓ワライ 思ふ↓オモウ

(2) 「くわ・ぐわ」は「カ・ガ」と読む。

(例) 火事↓カジ 元日↓ガンジツ

(3) 母音が a・i・e となる音に u の音が続くとき、au はオー、iu はユー、eu はヨーと読む。

(例) 講堂 (kaudau) ↓コードー

教訓 (keukun) ↓キョークン

プラスα

↓文法や単語はもちろん、当時の風習などにも注目すると、古文がより読みやすくなる。

↓歴史的仮名遣いは、平安時代の発音をもとにした仮名の表記。発音は、時代が下るにしたがって変化していったので、現代人が理解しやすいように読むためには、上記のような約束事に従って読むことになる。

↓上記以外には、現代語では特殊な場合以外には用いない「ぢ」「づ」を用いるのも歴史的仮名遣いの特徴。

確認問題

問一 次の古語を音読すると、どのような音になるか。(例にならってカタカナで答えよ。)

- | | |
|---------------|------|
| (例) 言ふ〔ユー〕 | 「 」 |
| (1) 今日〔けふ〕 | 「 」 |
| (3) 管弦〔くわんげん〕 | 「 」 |
| (2) 道心〔だうしん〕 | 「 」 |
| (4) 回る〔まはる〕 | 「 」 |

◎ワ行とヤ行

小学校低学年で教わった五十音図では、ヤ行は「や ゆ よ」ワ行は「わ を」となっていたと思いますが、古文では、ヤ行は「やいゆえよ」、ワ行は「わゐうゑを」です。特に「ゐ」と「ゑ」に気をつけてください。それぞれ「イ」「エ」と読みます。また、なるべく正確に書けるようにしておいてください。

確認問題

問二 次の古語を音読すると、どのような音になるか。(例にならってカタカナで答えよ。)

- | | | | | | |
|------------|------|---------|------|---------|------|
| (例) 言ふ〔ユー〕 | 「 」 | (2) をとこ | 「 」 | (3) ゐなか | 「 」 |
| (1) 笑む〔えむ〕 | 「 」 | | | | |

3 文法を勉強するために

「古文」という科目は、古典文学の作品を読解できるようにしなければいのですが、そのためには、古典文法を学ばなければなりません。文法を学ばないと、古文を正確に現代語訳することが困難だからです。そのとき必要とされる文法のほとんどは、活用する語に関する知識です。古語の単語は次ページに示す品詞分類表のように分類されており、活用する語は、自立語では動詞・形容詞・形容動詞の三品詞、付属語では助動詞です。これらの語に関しては、その活用の仕方や性質を知らないと、単に現代語訳ができないだけでなく古語辞典すら満足に引けないということになりかねません。なにしろ、ほとんどの古語辞典は、活用する語に関しては見出し語が終止形で示されているのですから。

古典文法の活用を学ぶときに注意してほしいのは、現代語の文法との相違です。例えば現代語の文法では、活用形は「未然形・連用形・終止形・連体形・假定形・命令形」ですが、古典文法では、「假定形」ではなく、「已然形」といいます。

↓「ゐ」と「ゑ」は、もともと「い」「え」とは発音が異なっていたのだが、時代が下るにしたがって変化し、「い」「え」と同じ発音になってしまった。

↓助詞以外の「を」は、「オ」と読む。例えば、「とをか」は「トオカ」と読む。語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。

↓自立語とは、単独で文節をつくることのできる語。簡単にいえば、それだけでなんらかの意味を表している語である。付属語とは、その言葉だけで文節をつくることのできない語。

↓形容動詞に関しては、多くの古語辞典が、語幹を見出し語にしている。例えば、「あはれなり」という形容動詞の見出し語は、「あはれ」。

↓「已然形」の「已」の字は、「すでに」という意味で、「已然」とは、「もうすでにそうなっている」という意味。「已」や「已」とは異なる字なので気をつけよう。

古典文法では、単語を次のように分類しています。



現代語の文法と異なっているのは、次の三点です。

- ・ 現代語では、動詞の言い切りの語尾がウ段音だけだが、古文ではラ変動詞が「り」で終わる。
 - ・ 現代語では、形容詞の言い切りの語尾が「い」だが、古文では「し」で終わる。
 - ・ 現代語では、形容動詞の言い切りの語尾が「だ」だが、古文では、「なり」と「たり」で終わる。
- ここで言う「言い切りの形」というのは終止形のことですから、右のことを知らないと古語辞典が引けません。

確認問題

問三 次の各説明を読んで、該当する品詞名を答えよ。

- (1) 付属語で活用しない語。 []
- (2) 自立語で活用し、言い切りの語尾が「し」で終わる語。 []
- (3) 自立語で活用し、言い切りの語尾が「なり」「たり」で終わる語。 []

↓「ラ変動詞」とは「あり・をり・はべり・いますがり」の四語の動詞。

↓現代語の形容詞「うつくしい」は、古文では「うつくし」。現代語の形容詞「白い」は古文では「白し」。現代語の形容動詞「おろかなり」は、古文では「おろかなり」。

1 次の古語を音読すると、どのような音になるか。例にならってカタカナで答えよ。

例	言ふ	〔ユー〕
(1)	さうらふ	〔 〕
(3)	酔ふ <small>よゑ</small>	〔 〕
(5)	荒涼 <small>くわうりやう</small>	〔 〕
(7)	願人坊主 <small>くわんにんぼうず</small>	〔 〕
(2)	火急 <small>くわきふ</small>	〔 〕
(4)	てふてふ	〔 〕
(6)	院の庁 <small>ゐんちやう</small>	〔 〕
(8)	なんでふ	〔 〕

2 次の用言(自立語で活用する語)の品詞名を答えよ。ただし、すべて終止形で示されている。

(1)	さうぎやうし	〔 〕
(3)	漫々たり	〔 〕
(5)	いらふ	〔 〕
(2)	あはれなり	〔 〕
(4)	あり	〔 〕
(6)	いみじ	〔 〕

3 次の一連のひらがなについて、空欄に入れるのに適当な文字を記せ。

ア行	あ	(1)	い
ヤ行	や	(3)	う
ワ行	わ	(4)	え
		(5)	お
			を
			よ

1

「ア」

(1)まず、語頭と助詞以外の「はひふへほ」を「わいうえお」に直し、次に母音がa u となっているとこを、「オー」と直す。

2

「ア」

(6)濁音の「じ」も「し」と同様に考える。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

昔、丹後国に浦島といふ者侍りしに、その子に浦島太郎と申して、年の齡二十四のをのこありけり。明け暮れ、海のうろくづを取りて、父母を養ひけるが、ある日のつれづれに、釣をせんとて出でにけり。浦々島々、入江入江至らぬ所もなく、釣をし、貝を拾ひ、みるめを刈りなどしけるところに、^②ゑしまが磯といふ所にて、亀を一つ釣り上げける。浦島太郎、この亀に言ふやう、「なんぢ、^④生あるものの中にも、鶴は千年、亀は万年とて、命久しきものなり。たちまち、ここに命を断たんこと、^Bいたはしければ、助くるなり。常には、この恩を思ひ出だすべし」とて、この亀をもとの海に返しける。

5

かくて、浦島太郎、その日は暮れて帰りぬ。また次の日、浦の方へ出でて、釣をせんと思ひ見ければ、はるか海の上に、^⑤小船一艘浮かべり。怪しみやすらひ見れば、^Cうつくしき女房、ただ一人波にゆられて、次第に太郎が立ちたる所へ着きにけり。浦島太郎が申しけるは、「御身いかなる人にてましますば、^Dかかる恐ろしき海上に、ただ一人乗りて御入り候ふやらん」と申しければ、女房言ひけるは、「されば、さる方へ便船申して候へば、折節、波風荒くして、人あまた海の中へはね入れられしを、心ある人ありて、みづからをば、このはし舟に乗せて放されけり。悲しく思ひ、鬼の島へや行かんと行方知らぬ折節、ただ今人に逢ひ参らせ候ふ、この世ならぬ御縁にてこそ候へ」とて、さめざめと泣きにけり。

10

〔浦島太郎〕

重要古語

丹後国 現在の京都府北部。

侍り 〔「あり」の丁寧語。「侍りし」

は「いました」の意味。

うろくづ 魚。

みるめ 海藻。

やすらひ 動詞「やすらふ」は、

「ためらう」の意味。

女房 ここでは、単に「婦人・女性」の意味。

御入り候ふ いらつしゃるのです。

便船 都合のよい船。

折節 ちょうどその時。

心ある人 情け深い人。

みづから 私。

はし舟 小舟。

この世ならぬ御縁 前世からの御縁。

縁。

問一 傍線部①～⑧の語を音読すると、どのような音になるか、例にならってカタカナで答えよ。

例	いふ	「ユー」
①	をのこ	_____
③	言ふやう	_____
⑤	小船一艘	_____
⑦	候ふ	_____
②	ゑしま	_____
④	生	_____
⑥	やすらひ	_____
⑧	申し	_____

問二 傍線部A～Dの語の終止形を答えよ。また、古語辞典を引いて語義を調べ、文脈にふさわしい訳語を終止形で答えよ。

A	つれづれに (形容動詞)	終止形	_____	訳語	_____
B	いたはしけれ (形容詞)	_____	_____	_____	_____
C	うつくしき (形容詞)	_____	_____	_____	_____
D	いかなる (形容動詞)	_____	_____	_____	_____

問三 二重傍線部「もとの海に返しける」は品詞に分解すると「もと／の／海／に／返し／ける」のようになる。それぞれ品詞名を答えよ。

もと	海	返し
_____	_____	_____
の	に	ける
_____	_____	_____

UNIT

問一 語頭と助詞以外の「はひふへほ」は「ワイウエオ」と読むこと、a u、i u、e uなど、母音が重なっているところはオー、ユ、ヨと長音で読むこと、「わらうゑを」は「ワイウエオ」と読むことなどを確認する。

問二 形容詞の見出し語は終止形だが、形容動詞の見出し語は、語幹であることが多い。

問三 まず「もとの／海に／返しける」と三つの文節に分け、それぞれの単語について、文節の先頭に來ている自立語か、自立語に意味を添えている付属語かを考える。その後で、活用の有無を考える。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

むかし、男ありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあらず、あづまの方^{なた}にすむべき国もとめに
とてゆきけり。もとより友とする人、ひとりふたりしていきけり。道しれる人もなくて、まどひいきけり。三河^{みかは}の国
八橋^{やっはし}といふ所にいたりぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく河のくもでなれば、橋を八つわたせるによりてなむ、八
橋といひける。その沢のほとりの木のかけにおりゐて、かれいひ食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲き
たり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ五文字^{いつもじ}を句のかみにすゑて、旅の心をよめ」といひけれ
ば、よめる。

③ から衣^{ころも}きつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞ思ふ

とよめりければ、みな人、かれいひの上に涙おとしてほとびにけり。

富士^{ふじ}の山を見れば、五月^{さつき}のつごもりに、雪いと白うふれり。

⑤ 時しらぬ山は富士の嶺^ねいつとてか鹿子^{かのこ}まだらに雪のふるらむ

その山は、ここにたとへば、比叡^{ひえ}の山を二十ばかり重ねあげたらむほどして、なりは塩尻^{しほじり}のやうになむありける。

〔伊勢物語〕九 東下り

(注) きれいひ干した飯。

ここは京都。

10

5

読解のコツ

歴史的仮名遣いの特徴に注意して、古文を声に出して読んでから取り組んでみよう。

重要古語

えうなきもの 必要とされない者。
あづまの方 東国の方。

まどひいきけり 迷いながら行つた。
三河の国 現在の愛知県。

くもで 蜘蛛の八本の脚のように川が八方に流れ分かれていること。

おりゐて 馬から下りて腰をおろして。

かきつばた 初夏に咲く花の名前。
句のかみ 和歌の各句の頭。

から衣 中国風の衣服。転じて、美しい衣。「着る」の枕詞。

鹿子まだら 鹿の毛の白い斑点のまだら模様。

なり 姿、形。

古文常識

歌物語 「伊勢物語」のように、和歌を心に構成された物語を歌物語という。ほかに、「大和物語」「平中物語」

などがある。平安時代前期に多く作られた。和歌の贈答が生活に密着して

いた平安貴族世界ならではの文学形式である。和歌がストーリー展開

の要となることが多い。後続の平安

物語文学も、和歌を含む作品が多

比叡の山ひえいざん＝比叡山。

塩尻しおじり＝塩田で砂をすり鉢状に盛ったもの。

問一 傍線部A～Dの語の読みを、例にならって現代仮名遣いで答えよ。

(例) 言ふ 「いいう」

A おりゐて

B きれいひ

C いはく

D すゑて

問二 傍線部①について、なぜ「あづまの方」へ行ったと考えられるか。その理由にあたる部分を本文中から十四字で抜き出して答えよ。

問三 傍線部②「いとおもしろく」の意味を、次の中から一つ選び、番号を○で囲め。

1 たいそう白く

2 たいそう趣深く

3 たいそうおかしく

4 たいそうなつかしく

問四 傍線部③「から衣」の歌について、これは何を詠んだ歌か。本文中から三字で抜き出して答えよ。

問五 傍線部④「みな人、きれいひの上に涙おとして」とあるが、なぜ「涙をおとした」のか。最も適当なものを、

次の中から一つ選び、番号で答えよ。

1 旅に出たことを後悔しても京には戻れないから。

2 離れて暮らす家族の苦勞を知ったから。

3 愛する妻に二度と会えないことを悟ったから。

4 京に残してきた妻を思い長旅がつらくなったから。

問六 傍線部⑤「時しらぬ」とは、何の、どのような様子を表しているかを説明せよ。

く、その意味で物語形式の先鞭せんべんをつけたと言えるだろう。

▶▶▶

問二 「あづまの方」へ行った理由(思い)は、同じ文の中で説明されている。

問三 「おもしろし」は風景などのすばらしさに心を惹ひかれる意味である。

問四 「から衣」の歌は「ある人」に言われて詠んだものである。「ある人」はどのように言ったのかを読むこと。

問五 「から衣」の歌について、「つましあれば」の「つま」が掛詞であることを着目する。

問六 五月(夏)であるのに富士山はどのような様子なのかをとらえる。